

salon de cafe komo no ga

サロン・ド・カフェ・こもれび カフェ・こもれび

くもれびぞー！

「サロン・ド・カフェ こもれび」は、東京・新宿区にある小さな一軒家こもれび荘で、土曜日だけに開かれる、ちょっと風変わりな喫茶店です。老若男女、近所の人や遠方の人、さまざまな人々が誰でも自由に出入りでき、格安でおいしいお茶やコーヒーやランチが食べられて、何時間いても誰にも文句を言われない、そんな開かれた場所です。ときには、お客さんが皿洗いや盛り付けを手伝ってくれたり、スタッフがのんびりお話に興じていたりして、最初にここを訪れた人は、誰がお客で誰がスタッフか分からないようです。

こもれび荘は「自立生活サポートセンター・もやい」の活動拠点。「もやい」は、ホームレス状態にある方々に、アパートに入る際の連帯保証人を提供するなど、地域で生活していくためのお手伝いをしている団体です。

今から4年前のこと。「もやい」は、四谷の古いマンションを事務所として使っていたのですが、一軒家を借りないかという話を持ち上がりました。「もやい」の代表理事の稲葉剛が初めて下見に行った際の光景を、嬉々として話してくれた

寄り集まれる場を作ろう！

こうを思い出します。案内されて向かった、暗い路地のどん詰まりにある古めかしい一軒家―現在のコもれび荘―に着いたとき、ちょうど一筋のコもれびのような光がそこに射しており、そのとき彼は、「さまざまな苦しい思いや出来事を経てホームレス状態になり、ここにたどり着いた人たちに、一筋のコもれびのような光を見出して欲しい」と思ったそうです。この一軒家を「こもれび荘」と名づけ、荒れ果てた倉庫だった一階を、みんなで温かみのある木を使った空間に改装しました。

当時私はボランティアとして「もやい」に参加し、保証人になりアパートを借りた人たちの家庭訪問をしていました。ほとんどの人が、悩みがあっても相談できる人が誰もおらず、何げない日常会話でさえ交わす人もいない、日がな一日テレビだけを見て過ごす。アパートに入りホームレス状態から脱して衣食住が整っても、そんな絶望的ともいえる孤独を抱えているという現実を目の当たりにしました。私は、人間関係の貧困は、物質的な貧困よりも根深く、これは大変なことが起こっていると危機感を募らせました。そこで、「こもれび荘」に、みんなで寄り集まることが出来る、喫茶店を作ろうと提案したのです。(NPO法人自立生活サポートセンター・もやい・うてつあきこ)